

第 8 回 本明川ダム建設事業環境保全検討委員会 議事要旨

日 時：令和 7 年 3 月 17 日（月） 13：30 ～ 16：30

場 所：本明川ダム広報館及びビオトープ現地他

事務局からの説明

- ・事業進捗について報告した。
- ・本事業に係る環境保全の取り組み状況について報告した。
- ・令和 6 年度の事後調査報告書の内容について報告した。
- ・令和 7 年度の事後調査計画書の内容について報告した。

主な意見

○環境保全の取り組みについて

【全 般】

- ・重要種の保全のみならず、水質や生態系など、本明川流域において今後生じうる課題に対し、自治体や上下流の住民と一体となった流域管理の観点を持って取り組むことが重要である。

【植 物】

- ・草地環境に生育するリンドウは自生地が減少しているため、今後施工区域内で確認された場合には対応を検討すること。
- ・長崎県内で発生しているナラ枯れが本地域にも及んだ場合、重要な植物の移植地において林内照度に変化する可能性があるため、動向を注視すること。

【動 物】

- ・カジカ中卵型の環境 DNA 調査は、引き続き精度向上に向けて取り組んでいただきたい。
- ・動物の巡視で確認されたトンボ類等が本明川ダムの周辺で将来にわたり生息できるよう、ダム周辺環境の保全及び長期的なモニタリングが重要である。

【生態系】

- ・ビオトープが湿地としての機能を長期的に維持できるよう、地域と連携するなど、維持管理の方策を検討すること。

○その他

- ・環境学習会は、ダムの受益地である下流域の小学校も対象とすることが望ましい。
- ・環境学習会において、外来種問題への理解を深めてもらうような内容を検討して欲しい。